

平成26年度 第4回 緩和ケア講演会のご報告

平成26年度第4回緩和ケア講演会は、10月15日に開催いたしました。7月に行う予定でしたが、台風接近のために延期となった今回の講演会の出席人数は37名、うち、院内20名、院外17名でした。

今年度の年間テーマは「緩和ケアにおける各種スキル ～地域における各職種のプロに学ぶ～」です。第4回目の今回は「緩和ケアにおける食事の必要性和工夫 ～食べることで栄養支援～」というテーマで、岐北厚生病院 管理栄養士 森範子先生と、在宅総合医療クリニック 管理栄養士 安田 和代先生に、病院と在宅、二つの立場からお話をいただきました。

緩和ケア病棟に入院している患者さんの中には、『食べられない』患者さんが多くいらっしゃいます。理由は様々ですが、食べたいと思わせる環境や、食器や盛り付けなどの見た目などあらゆる工夫しています。そして、一番大切なのは、『食べたいタイミング』。患者さんが食べたい時に食べたい物を提供するということを大切にしているそうです。

一方、在宅で活躍されている安田先生は、いつでも患者さんのところに行けるわけではありませんが、患者さんを支えるご家族、すなわち食事を作り、食べさせるご家族への指導を大切にしているとのことでした。食べる量が減り、心配されるご家族に、「食べたい時に食べたい量だけでいいですよ」と伝え、その一言で安心され、最後まで在宅で過ごすことができるとの事例もありました。

今回は、質問がありませんでしたので、アンケートに寄せられた感想などを紹介します。

ご質問・ご意見とそのコメント

- ・在宅での緩和ケアは、本人だけではなく、家族の方の心のケアが重要なのだと感じた。
- ・緩和ケア病棟で、ひとりひとりの患者さんに対して、できる限りの対応をしていること。当り前のことだけど、生きる=食べることにつながることを再確認した。
- ・家族だけではミキサー食をなかなか作ることはできません。在宅管理栄養士さんがいることで、食べられないと思っていたものが食べられるようになったという事例を見て、とても良いことだと思った。
- ・自宅で看取る時にも栄養士が関わっていただけることで、家族が「良かった」と思えることがある。今は少ない在宅管理栄養士が増えていくといいと思う。



ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX: 0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp